

肉眼所見に乏しい“ヨード不染性の食道粘膜異常”を、臨床側は一括して“dysplasia”と呼び、解析に励んできた。この中には上皮内癌・粘膜癌が含まれ、良性の変化も多い。食道癌早期診断の最前線である。染色所見と生検組織診断との対比で、良性上皮性病変や明らかな癌は速やかに診断がつくまでになった。しかし、臨床と病理の双方に限界があり、一部の病巣は異型を認めながらも癌とも良性とも言えず、繰り返し検討し、年余にわたることもある。食道の上皮あるいは粘膜病変は、生検により大きな影響を受けやすく、病

理組織所見まで変化して、ますます診断が困難になる。内視鏡的粘膜切除法は少ない侵襲で、病巣全体の組織学的検索を可能にしたので、この課題を解決する道が開けた。

“dysplasia”の概念は現状に合わなくなってしまったので、今後は、“ヨード不染性の食道粘膜異常”のうち、明らかな異型性があるが、最終診断に至らないもののみを“食道異型上皮 esophageal atypical epithelium”と呼び、はたして良性か悪性か、“真の食道異型上皮”というものが本当に存在するのか、検討する時代になった。

胃と腸

3月号(第26巻・第3号) 予告

発売予定 3月25日
定 価 1,957円(税込)

主題／早期胃癌の内視鏡的切除(1)―根治を目的として

- 序 説** 早期胃癌の内視鏡的切除(1)―根治を目的として……………大阪医大・2内科 大 柴 三 郎
- 主 題** 早期胃癌内視鏡的切除の適応を満たす術前診断の条件……………順大・消内 浜田 勉・他
- 病理学的にみた早期胃癌内視鏡的切除の適応条件……………福岡大筑紫病院・病理 岩下 明德・他
- 早期胃癌に対するHSE局注を併用した内視鏡的切除法
(ERHSE)―根治を目的として……………北海道勤医協中央病院 内沢 政英・他
- 早期胃癌の内視鏡的切除法……………平塚胃腸病院 田中 清一・他
- 早期胃癌の内視鏡的切除―根治を目的として……………山形県立中央病院 大泉 晴史・他
- 早期胃癌の内視鏡的切除標本の取り扱い……………神戸大・2病理 藤盛 孝博・他
- 今月の症例** 典型IIC型早期胃癌の1例……………大阪市立大・3内 河田佳代子・他
- 初心者講座** 胃X線検査のポイント―私の精密検査法
2. 精密検査のビットホール……………馬場 保昌・芳野 純治・中野 浩

胃と腸 (第26巻 第2号)

編 集 早期胃癌研究会

発 行 株式会社 医学書院

代 表 者 金原 優

〒113-91 東京都文京区本郷5-24-3

☎ 社内案内 (03) 3817-5600

本誌編集室直通 (03) 3817-5714

販売部直通 (03) 3817-5659

1991年2月25日発行(毎月25日発行)

1部定価1,957円(本体1,900円)(配送料81円)

年ざめ予約購読料22,320円(本体21,670円)

(送料弊社負担)

FAX (03) 3815-7802

振替口座 東京7-96693 番

印 刷 所 永和印刷(株) ☎(03) 3813-5001

広告取扱 医界弘報社 ☎(03) 3814-5771

- Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo. © 1991, Printed in Japan.
- 本誌に掲載された著作物の複写・転載およびデータベースへの取り込みに関する許諾権は医学書院が保有しています。
- 無断で複写・複製・転載すると、著作権の侵害となることがありますので御注意下さい。

(担当)窪田・長谷川・江口・大竹